

2025年度技術士 CPD 審査 報告

CPD 審査委員会

技術士 CPD 活動実績は、自己の責任において資質の向上に寄与したと判断できるものを CPD の対象とし、その実施結果を「CPD 時間算定基準」に基づき登録するものである。CPD 審査委員会は、技術士 CPD 活動の内容の質を確保するため、日本技術士会の CPD 登録システム（Pe-CPD）に登録された CPD 記録の定期抽出審査を行い、修正が必要な CPD 記録について、指導内容を審査対象者に個別で通知している。

2025 年度は下表のとおり審査を 3 回行い、それぞれ審査開始の時点で、「対象期間の CPD 時間の合計が多い順」で審査対象者を抽出して実施した。

審査実施回	CPD 記録の審査対象期間	対象者	件数_計
① 2025 年 7 月	6 か月 (2025.1~2025.6)	410 名	3,934 件
② 2025 年 11 月	10 か月 (2025.1~2025.10)	179 名	2,566 件
③ 2026 年 2 月	12 か月 (2025.1~2025.12)	161 名	2,891 件

1. 審査方法

審査は、技術士 CPD ガイドライン Ver1.3 の「CPD 活動の資質項目・形態項目」、技術士 CPD 管理運営マニュアル Ver1.4 および技術士 CPD マニュアル Ver1.5 の「CPD 時間算定基準、注意事項」に準拠し実施した。

審査委員 10 名により、審査対象者の登録データを 1 件毎（CPD 記録毎）に精査し、修正・改善が必要な CPD 記録については、指導内容のコメントを付けた。

2. 審査対象者の CPD 登録状況

上記 3 回の審査対象者のそれぞれ「審査開始時点」の CPD 記録の登録状況を示す。

(1) CPD 時間

CPD 時間	7月審査	11月審査	2月審査
30未満	178 名 (43.4%)	17 名 (9.5%)	0 名 (0.0%)
30以上 40未満	112 名 (27.3%)	63 名 (35.2%)	22 名 (13.7%)
40以上 50未満	56 名 (13.7%)	41 名 (22.9%)	45 名 (28.0%)
50以上 60未満	29 名 (7.1%)	30 名 (16.8%)	40 名 (24.8%)
60以上 70未満	12 名 (2.9%)	15 名 (8.4%)	25 名 (15.5%)
70以上 80未満	8 名 (2.0%)	5 名 (2.8%)	8 名 (5.0%)
80以上 90未満	8 名 (2.0%)	4 名 (2.2%)	4 名 (2.5%)
90以上 100未満	2 名 (0.5%)	3 名 (1.7%)	8 名 (5.0%)
100以上	5 名 (1.2%)	1 名 (0.6%)	9 名 (5.6%)
計	410 名	179 名	161 名

CPD 時間 最小/最大	最小 20	最小 28	最小 30
	最大 247	最大 141	最大 514

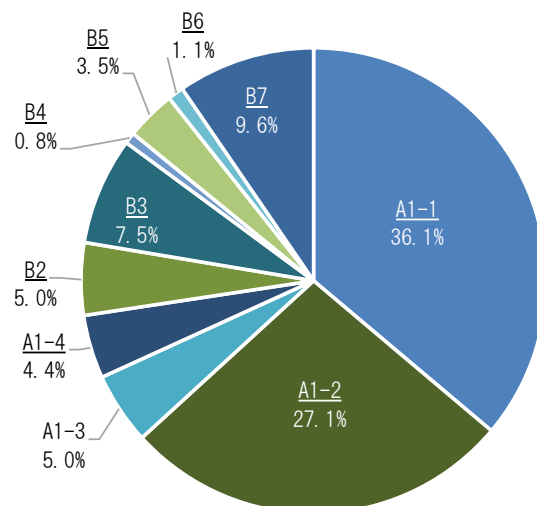
(2) 資質項目

審査対象者の登録データ（3回の審査で計9,391件）の、「資質項目別」の登録件数の割合は次のとおりである。「A1-1 技術部門全般」と「A1-2 専門(選択)科目」の登録が多くを占め、その他の資質項目の登録は、それぞれ10%未満である。

2024年度の審査対象者の登録データと比較すると、同様の分布となっている。

資質区分・資質項目		件数	割合
A 専門的学識	1-1 技術部門全般	3,394	36.1%
	1-2 専門(選択)科目	2,543	27.1%
	1-3 法令・規格等の制度	468	5.0%
	1-4 社会・自然条件	414	4.4%
B 一般共通資質	2 問題解決	472	5.0%
	3 マネジメント	701	7.5%
	4 評価	73	0.8%
	5 コミュニケーション	325	3.5%
	6 リーダーシップ	103	1.1%
	7 技術者倫理	898	9.6%

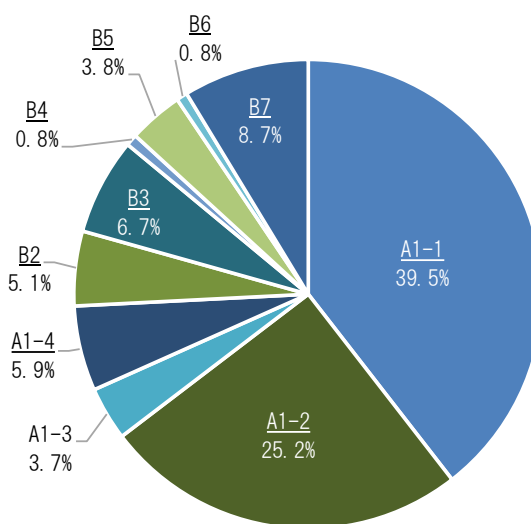
計 9,391



参考：2024年度審査（3回の審査で計17,831件）

資質区分・資質項目		件数	割合
A 専門的学識	1-1 技術部門全般	7,041	39.5%
	1-2 専門(選択)科目	4,485	25.2%
	1-3 法令・規格等の制度	658	3.7%
	1-4 社会・自然条件	1,046	5.9%
B 一般共通資質	2 問題解決	917	5.1%
	3 マネジメント	1,188	6.7%
	4 評価	142	0.8%
	5 コミュニケーション	671	3.8%
	6 リーダーシップ	134	0.8%
	7 技術者倫理	1,549	8.7%

計 17,831



(3) 形態項目

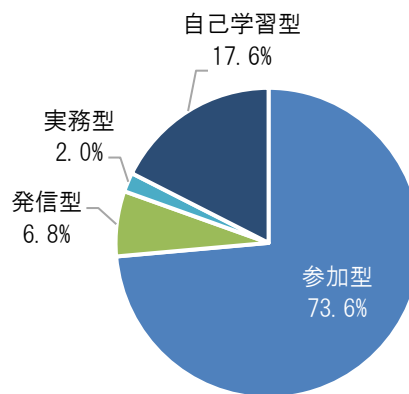
審査対象者の登録データの、「形態項目別」の登録件数の割合は次のとおりである。参加型 CPD の登録が多く、特に「1 講演・研修」の登録が半数近くを占めている。

2024 年度の審査対象者の登録データと比較すると、「参加型」が 5.0% 減少し、「自己学習型」が 3.6% 増加している。（なお、2023 年度は参加型 79.1%、自己学習型 12.3% であった。）

形態区分・形態項目		件数	割合
参加型	1 講演・研修	4,155	44.2%
	2 組織内研修	1,789	19.1%
	3 学協会活動	968	10.3%
発信型	4 論文・報告文	120	1.3%
	5 講師・技術指導	444	4.7%
	6 図書執筆	26	0.3%
	7 技術協力	49	0.5%
実務型	8 資格取得	79	0.8%
	9 業務成果	109	1.2%
※	10 多様な自己学習	1,652	17.6%

計 9,391

※：自己学習型

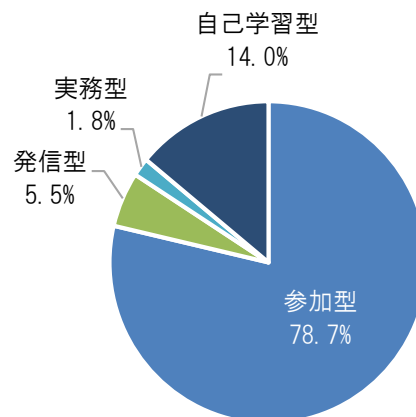


参考：2024 年度審査

形態区分・形態項目		件数	割合
参加型	1 講演・研修	9,798	54.9%
	2 組織内研修	2,572	14.4%
	3 学協会活動	1,655	9.3%
発信型	4 論文・報告文	198	1.1%
	5 講師・技術指導	697	3.9%
	6 図書執筆	27	0.2%
	7 技術協力	62	0.3%
実務型	8 資格取得	118	0.7%
	9 業務成果	209	1.2%
※	10 多様な自己学習	2,495	14.0%

計 17,831

※：自己学習型



3. 審査結果

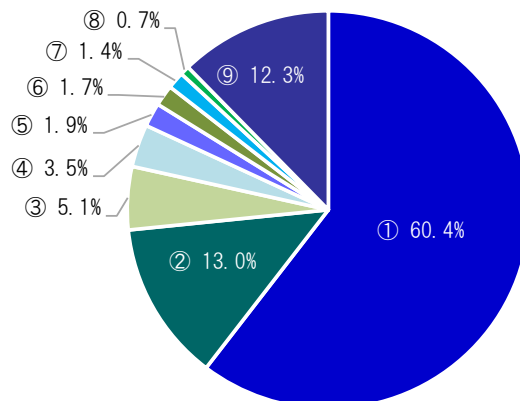
2025年度の審査結果を示す。対象データ計9,391件のうち4,136件【44.0%】について修正・改善が必要であり、対象者計750名のうち672名【89.6%】へ指導内容のコメントを付けて通知した。

審査実施回	CPD記録の審査対象期間	対象者/件数	うち指導内容あり
① 2025年7月	6か月(2025.1~2025.6)	410名 3,934件	355名(86.6%) 1,353件(34.4%)
② 2025年11月	10か月(2025.1~2025.10)	179名 2,566件	165名(92.2%) 1,199件(46.7%)
③ 2026年2月	12か月(2025.1~2025.12)	161名 2,891件	152名(94.4%) 1,584件(54.8%)

①~③ 計 750名 672名(89.6%)
9,391件 4,136件(44.0%)

指導内容(コメント)の分類

指導内容の分類	1 講演・ 研修	2 組織内 研修	3 学協会 活動	4 論文・ 報告文	5 講師・ 技術指 導	6 図書執 筆	7 技術協 力	8 資格取 得	9 業務成 果	10 多様な 自己学 習	計
① CPD内容などの記入不足	495	1,161	172	53	114	20	10	6	12	455	2,498 (60.4%)
② 実施形態(登録コード)が異なる	146	51	77	24	49	1	7	13	6	163	537 (13.0%)
③ 事務的案内などCPDとして不要な記述がある	169	5	24		8			2		4	212 (5.1%)
④ 実時間を多く計上している	77	10	22	6	2				3	23	143 (3.5%)
⑤ CPD計上できない内容	6	9	1	2	6		1	11	5	39	80 (1.9%)
⑥ 同一内容を重複して計上又は他と実施時間が重複	37	19	5		7					2	70 (1.7%)
⑦ 年度の途中で通年活動をまとめて計上			57								57 (1.4%)
⑧ 2つの形態項目に分けて計上する必要がある	17	1	11	2							31 (0.7%)
⑨ その他	191	75	83	8	25	1		5	9	111	508 (12.3%)
計	1,138	1,331	452	95	211	22	18	37	35	797	4,136



4. 総評

2025 年度より技術士 CPD マニュアル Ver1. 5 の CPD 時間算定基準および同注意事項に基づき登録することになったが、新しい基準および新しい基準から改修した CPD 登録システムが十分に周知されていないためか、旧マニュアル Ver1. 4 に基づく登録なども一部みられた。間違った登録をなくしていくためには、新しい CPD 時間算定基準の周知を引き続き徹底するとともに以下の注意事項の改訂および CPD センターには CPD 登録システムの改修を提案する。

- ① 「CPD 内容などの記入不足」は、「10. 多様な自己学習」【010】の CPD 時間算定基準（注意事項）では「2）原則として1日ごとに計上する。ただし、プログラム（語学講座等）に基づく継続学習は1回当たりの時間と回数を記入することで一括計上できる。」として新マニュアル Ver1. 5 から追加された。しかしながら、多様な自己学習【010】として「資格取得のための学習」や「専門誌・学術誌の購読」を一括計上し、継続学習として実時間の妥当性がわかる CPD 内容などの記入が不足しているものが多い（語学講座：約 48(23)件、資格取得のための学習：約 261(60)件、専門誌・学術誌の購読：約 271(64)件）。※カッコ内の数値は複数日の CPD 活動を一括計上した件数。

これらの実態を考慮して前述の注意事項を修正（追加）する（下線部分）。「2）「原則として1日ごとに計上する。ただし、プログラム（語学講座、資格取得のための学習及び専門誌・学術誌の購読等）に基づく継続学習は1回当たりの時間と回数を記入することで一括計上できる。」

また、「Pe-CPD の講演録画の視聴（HP 視聴）」について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う臨時運用対応として講演・研修 [100] で計上できるとしていたが、感染症法上の位置付けの変更（2023 年 5 月）および Pe ラーニングの開始により、講演・研修【100】から多様な自己学習【010】へ移行した（新マニュアル Ver1. 5）。これにより、CPD 登録システムから HP 視聴のエビデンスを記録する機能が削除されたが、CPD 内容などの記入が不足しているものが増加した。この対策として講演タイトルに「HP 視聴」を追記した（講演タイトル+ [HP 視聴]）。この効果は次回以降の CPD 審査から期待している。

- ② 組織内研修【200】について、2025 年度 CPD 登録データの「備考欄」にはエビデンスを所持する記入が一定数見られる（約 97 件）。現 CPD 登録システムにおいて組織内研修【200】を選択した場合、エビデンス（受講証、修了証、配布資料、参加票など）を記録する機能はない。また、新マニュアル Ver1. 5 から CPD 時間算定基準（注意事項）の形態項目の共通事項として、「2）CPD 活動実績は分かりやすく簡潔に記入するとともに、活動実績が確認できる受講証、議事録、プログラム、表彰状等を保管し、技術士本人の責任において説明できるようにしておく。」が追加された（下線部分）。これにより、CPD 登録者が活動実績に伴うエビデンスの有無およびその種類を記録して、前述した説明責任に備えるとともに、継続研さんに活用（繰り返し学習や CPD 活動計画の立案等）できるよう CPD 登録システムにエビデンスのチェック欄を設ける。
- ③ 学協会誌の定期購読【320】について、CPD 時間算定基準（注意事項）では「4）学協会誌の定期購読(320)は、1 学協会に限り年度末にまとめて計上できる。」と規定されている。しかしながら、2025 年度 CPD 登録データの内訳として、活動日ごとに計上：約 245 件、年度末まとめて計上：約 198 件、その他（複数日）まとめて計上：約 29 件。これらの実態を考慮して前述の注意事項を修正（追加）する（下線部分）。「4）学協会誌の定期購読【320】は、活動日ごとに個別に計上することを原則とするが、1 学協会に限り年度末（3 月）にまとめて計上できる。」

以上